

野外におけるイリドウィルスワクチンの 有効性と安全性試験*

竹内 照文・服部 未夏

目 的

イリドウィルス不活化ワクチンを養殖マダイに投与し、野外におけるワクチンの安全性と有効性を検討する。

なお、本事業は財団法人阪大微生物病研究会からの委託事業である。

方 法

イリドウィルスのワクチンは財団法人阪大微生物病研究会が製造したものをを用い、6月24日に近畿大学浦神実験所で当才マダイ（平均魚体重10g）に0.1ml腹腔内に接種した。これを1週間予備飼育した後、トラックで当场まで輸送し、和歌山県田辺市元町目良湾内の当场試験筏（3×3×2.5m）で試験を行った。

1 試験の設定と飼育条件

- 1) 供試魚 マダイ当才魚 平均体重19.7g
- 2) 試験区と供試尾数
 - ワクチン投与区 893尾
 - 対 照 区 875尾
- 3) 試験期間 1997年7月1日～9月16日

4) 飼育条件

- 飼 料 ドライペレット
- 給 餌 給餌は1日1～2回、自由摂餌させ飽食給餌とした。

2 観察条件

1日1回生簀網を上げ、斃死状況を観察した。

また、斃死魚については寄生虫と細菌について通常の病理検査を行うとともにイリドウィルスの有無を確認するためギムザ染色とモノクローナル抗体による検査を行った。

結 果

試験期間中の水温は24.9～29.3℃で、イリドウィルス感染症の発生に好適な水温帯で試験が行われた。ところが、本年はイリドウィルス感染症の発生がなく、接種区と対照区の生残率は各々98.4%と99.0%で全く差がなく、有効性については検討することができなかった。マダイは両区とも活発に摂餌し、中間計測時と試験終了時の両区の魚体重にほとんど差がなく、ワクチンの接種による悪影響はみられなかった。また、試験開始直後の斃死もなく、ワクチンの接種による副作用は認められなかった（表1）。

表1 イリドウィルスワクチン試験結果

	試験開始時 (7月1日)		中間計測 (8月6日)	試験終了時 (9月16日)		生存率
	供試尾数	平均体重	平均体重	尾数	平均体重	
接種区	893	19.7	53.7	879	97.7	98.4
対照区	875	19.7	54.7	866	95.5	99.0

*イリドウィルスワクチン実用化試験費による。